井深信男・浅野俊夫
日本動物心理学会第32回大会（1972）

3） ニホンザル実験群における社会的距離の分析
室伏靖子・南雲純治
日本動物心理学会第32回大会（1972）

4） ニホンザルの継時弁別反応におよぼす chlordiazepoxide の効果
長谷川康夫・井深允子・岩原信九郎
日本心理学会第36回大会（1972）

5） 中隔部電気刺激による誘発行動と自己刺激
小林博次・山中祥男・小嶋祥三
日本心理学会第36回大会（1972）

6） シロネズミのスキナー箱反応と弁別学習に及ぼす内側視床下部破壊の効果
永井洋一郎・小嶋祥三・他
日本動物心理学会第32回大会（1972）

7） シロネズミの視床下部電気刺激による誘発行動と自己刺激の関係
菅原和竹・山中祥男・小嶋祥三・他
日本動物心理学会第32回大会（1972）

8） シロネズミの active avoidance に及ぼす視床下部電気刺激と破壊の効果
山中祥男・川口　武・小嶋祥三・他
日本動物心理学会第32回大会（1972）

社会研究部門

川村俊蔵・河合雅雄
東　滋・鈴木　晃

研究概要

1） ニホンザルの分布論的研究
川村俊蔵・東　滋

前年度までの研究資料のまとめ，ならびに丹沢山地その他で若干の新しい調査を行なった。

2） 野生ニホンザルの群れ社会の研究

1. 幸島の群れを対象に，全個体の識別と個体の生活史をふまえて，社会変動に関する研究を行なった。また森は，メスの順位構造に関する研究を行なった。
河合雅雄・森　梅代[1]

2. ニホンザルのコドモの遊びと社会関係
森　梅代

幸島の infants, juveniles を対象に，群れの全個体の識別と個体追跡法により，遊びに関する質的，量的データを収集した。年令・性・血縁関係を3つの軸として，遊びを通じての発達と社会関係を分析した。

3. ポピュレーション分布，および遊動と環境要因に関する研究
東　滋

下北半島の群れを対象に，積雪地における群れの分布のあり方，ポピュレーション動態，遊動の状況を，主として植生と地形との関連において検討した。

4. 下北半島のニホンザルの社会生態学
東　滋

ニホンザル自然群の遊動・食性・土地利用を，生息環境の構造，その季節的変動とサルの生活現象の年内リズムの両側面からとらえる。

5. ニホンザルの個体群の維持・生活の維持におよぼす森林施業，その他の human impact の影響
東　滋

6. 福井県音海の群れにおいて，個体関係を時間軸，つまり発達と因果関係をふくめて質的及び量的に把握し，社会行動学的な意味を探究した。
川村俊蔵・渡辺邦夫[2]

3） 海外調査に関するもの

1. アフリカにおける霊長類の生態学的研究（特別事業による）
鈴木　晃

昭和47年8月6日から昭和48年6月1日まで，タンザニア，ケニア，ウガンダで，霊長類の生態学的研究を行なった。主としてウガンダのブドンゴの森において，チンパンジーの社会生態学研究を行ない，同時に数種の狭鼻猿についても同様の研究を行なった。

2. 熱帯降雨林における樹上性霊長類の社会生態学的研究
河合雅雄・東　滋

ウガンダの森林で行なった研究を中心に，森林性霊長類の適応と社会構造について考究した。

4） 自然保護に関する作業
川村俊蔵・東　滋

岐阜県全域，鈴鹿有料道路（継続），兵庫県美方町，神奈川県渡川村において自然保護に関する基礎調査ならびに意見具申を行なった。

5） 農林業に影響を及ぼす野生獣類の管理に関する研究
川村俊蔵・東滋・和泉剛[3]・宮木雅美[4]

昨年に引きつづき，四手井綱英を代表者とする上記研

[1] 教務職員
[2] 京大大学院学生
[3] 研修員
[4] 研修員

究において，ニホンザル・タヌキ・キツネ・ツキノワグマの生態研究を行ない，農林学との関係及び生態学的管理方法の考究を行なった。

6) ニホンザル研究林設置のための基礎調査等

川村俊蔵・東　滋

野生ニホンザルの安定した研究地を確保し，共同利用研究所として活用する計画を推進するため，これまで行なっていた基礎調査を強化するとともに，関係者との間の調整を行なった。この結果，下北・木曽・屋久島の三研究林予定地に関してほぼ準備を整えることができた。

総　説

1) 河合雅雄 (1972)：比較霊長類社会学。バイオテク 3：407—412。

論　文

1) 川村俊蔵 (1972)：台高山脈における大型哺乳類の調査結果と今後の保護について。大杉谷・大台ケ原自然科学調査報告書（三重県自然科学研究会）pp. 131—141。
2) 川村俊蔵・他 (1972)：滋賀県の自然保護—総論と総括。滋賀県の自然保護に関する調査報告（滋賀県）pp. 1—5。
3) 川村俊蔵・他 (1972)：滋賀県における動物の保護。滋賀県の自然保護に関する調査報告（滋賀県）pp. 47—66。
4) 川村俊蔵 (1972)：滋賀県の自然保護に関する調査報告補足資料—滋賀県における大型哺乳類の分布とその保護について。滋賀県 pp. 1—9。
5) 川村俊蔵 (1973)：兵庫県におけるニホンザルの現状。兵庫県の自然の現状（兵庫県生活部自然課）pp. 95—99。
6) 川村俊蔵・他(1972)：清川村ニホンザル調査報告—サルの生息状況および山村とサルの関係の未来像について。マカク研究会 pp. 1—16。
7) 河合雅雄 (1972)：森林のサルと進化。サイエンス 2：32—48。
8) 東　滋・足沢貞成・森　治 (1972)：天然記念物下北半島のニホンザルおよびその生息北限地。緊急調査報告書（昭和47年度）。
9) 東　滋 (1972)：岐阜県の自然環境保全に関する調査報告書（哺乳類の部）。岐阜県。

学会発表

1) ニホンザルのアカンボ期におけるあそびと社会関係

森　梅代

第26回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1972)

2) 霊長類とくにニホンザルの「て」の使用

江原昭善・河合雅雄

第26回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1972)

3) 遊牧するニホンザルの群れ構造—山の中でのあつまり—

東　滋

第17回プリマーテス研究会 (1973)

4) 滋賀・兵庫・三重県におけるニホンザルの分布について

川村俊蔵

第17回プリマーテス研究会 (1973)

変異研究部門

野沢　謙・江原昭善
和田一雄・西郷頭遠
庄武孝義

研究概要

1) ニホンザル集団の構造に関する数理的研究

野沢　謙

ニホンザルにはその社会構造の単位として群れの存在が確認されている。群れの遺伝学的有効サイズ，群れの間の移出入率などは，ニホンザル集団の遺伝学的構造と動態を支配する重要なパラメーターである。従来から蓄積しているニホンザルの社会，生態学的知見を利用して，これらパラメーターを定量的に明らかにしようとするものである。

2) サルの蛋白多型現象の探索と遺伝的変異性の定量化

野沢　謙・庄武孝義

遺伝的多型現象の存在を明らかにし，その頻度分布をもとにして，サルの集団の構造と動態を統計学的に解明せんとするもので，現在は血液型と血液蛋白の遺伝変異を明らかにすべく材料の収集と検索を行なっている。

3) ニホンザルの先天的四肢奇形への遺伝学的アプローチ

野沢　謙

4) 霊長類各分類群の頭骨諸形質の形態学的研究

江原昭善

イ) 47年度にひきつづき，狭鼻猿各分類群のX線像について，頭骨の発達様式を比較分析し，一応その成果が得られたので Zeitschrift für Morphologie und Anthropologie に投稿し，現在印刷中である。

ロ) 霊長類各群の頭部支持機構について，47年度科研費総合Aの分担課題として，研究を送行し，X線撮影による資料を収集した。現在そのX線像について